２８年 単元名「耳で見よう、目で聴こう」諸感覚を横断した芸術表現ワークショップ」（２時間）

1　単元設定の理由

太平洋に隣接した地域で育つ子ども達を対象に海をテーマにして、諸感覚（触覚・視覚・聴覚）を融合した、美術と音楽の領域横断型の表現の即興ワークショップを企画・実施し、その効果を検証する。なお、本単元では、海をテーマにした新しいタイプの表現教育プログラムのプロトタイプとしての効果も検証する。

2　単元目標

海をモチーフにしたオリジナルな図形楽譜の制作と発表のプロセスを通して、独自の発想で表現することの楽しさを学ぶことができる。また、仲間との共働において、自分のアイデアを仲間に伝え、また、他者のアイデアや表現を認め合うことを通して協調性を養うことができる。さらに、描画を音に変換させる行為を通して、表現の多様性に気づき、新たな表現方法が獲得できる。

3　単元の評価基準

成果物：1 回目のワークショップで作成したコラージュ作品（図形楽譜）と 2 回目のワークショップでの作品に基づいた演奏。
質問紙：教員に実施したアンケート　別紙参照

4　単元の指導計画

参加者：中学部２２名（男子２０名、女子２名）　教員１５名

参加形態：４つのグループに分かれている。

時	学習活動	指導上の留意点
1	①あいさつ　円陣になり、手をつないだ身体表現を通して、始まりを認識する活動（3’00”） ②海のイメージ探り　グループ活動に向けて一つの楽器（オーシャンドラム）の共有を通じ、コミュニケーションを取りながら一体感を得る即興音楽活動(7’00”) ③ブリッジワーク　「海の音はどんな音」から「海が運んでくるもの（音ともの)」の問いかけで、音から視覚的なモチーフに注意を向ける活動（2’30”） ④コラージュの説明　「海が運んでくれるもの」をイメージする。「いろのわ（添付資料１)」から、一人２枚の用紙を選択することを示す（2’30”） ⑤コラージュデモ　波の形を身体の動きと重ねて紙を裂くこと、柔らかい紙を丸めて貝の形をイメージすることを紹介（7’00”)。 ⑥グループワーク（コラージュ作り）　グループに分かれ「いろのわ」から一人２枚の用紙を選び、海のモチーフを作る。作ったモチーフを台紙に置いて、皆で海のイメージを話し合いながらコラージュ作品を作る活動（23’00”)。 ⑦終わりのワーク　ウィンドチャイムの音をきっかけに終了を認識する活動（5’00”)。	①　導入に際し、歌声とピアノ音で生徒の注意を引き、活動の開始に情動的な柔らかさをもたせる。他者との身体表現を通じた活動により一体感を生じさせるように導く。 ②　他者が出すオーシャンドラムの音に集中して、イメージを探るように働きかける。背景のピアノ伴奏は波のイメージを引き出すような柔らかさと反復性をもたらすように即興で演奏する。 ③　生徒自身の気づきを利用し聴覚、視覚、触覚を関係付けながら、海のイメージを広げるように問いかける。②から④に活動が重なる様に導く。 ④　「いろのわ」から用紙を選ぶ際は、色と質感、触ったときの音等に注意して選ばせる。重複障がいのある生徒は、「いろのわ」小を利用して用紙を選択するように促す。

		⑤ デモではファシリテーターの身体の動きと即興的に生み出す紙の形状が生徒からよく見える様に注意する。 ⑥ グループワークでは、個々が作ったコラージュのパーツが何をイメージしたのか、他者からはどう見えるのか、互いに解釈を共有するように声かけをする。台紙へのレイアウトは、いきなり糊付せず、パーツを重ねたり場所を変更するなど、グループでアイデアを共有して試すよう働きかける。各グループのハサミの使用には各教員が注意する。 ⑦ 教条的にならにように、ウィンドチャイムの音を利用して柔らかに注意を引きながら活動を終了する。次の活動につなげるため、完成したコラージュを鑑賞することを促す。
1	① あいさつ　円陣になり、手をつないだ身体表現を通して、活動の始まりを認識する活動（3’00”） ②海のイメージ投影　制作した作品を鑑賞しながら、前回もった海のイメージと新たな海のイメージを引き出すため、一つの楽器（オーシャンドラム）を共有することで海のイメージを楽器に投影していく即興音楽活動。また、テーマ性と強めるため、オリジナル作品「海の音」（添付資料２）をピアノで演奏し、生徒一人一人が自分のペースで取り組めるように音で支持していく。(10’00”) ③グループワーク（音作り）　グループに分かれての活動。作品を図形楽譜として捉え、その中にあるパーツを音楽的なモチーフとして一つ選び、そのモチーフに見合う音色のする楽器を選ぶ。（20’00”） ④発表会　各グループ毎にタイトルをつけて発表する。（12’00”） ⑤終わりのワーク　ウィンドチャイムの音をきっかけに終了を認識する活動（5’00”）。	①手つなぎという身体接触により他者との一体感を生じさせ、歌を共有することにより活動への参加を指導する。 ②作品の鑑賞を通して生まれるイメージを即興的な表現に変換させるために楽器を提示していく。ひとりずつ即興演奏していくことで個が他者に意識されるように指導する。 ③グループワークとして、作品の細部に意識が向くように促すことと、実際に楽器を手に取らせたとき、作品との関係性が生まれるように、声かけなどで確認するなど指導していく。また、グループワークとして個別の活動にならないよう、グループの中でアイデアを共有するように指導する。 ④発表会が円滑にすすむように、発表の段取りを指導する（誰から演奏するか、あるいは一緒に演奏するのか、指揮者を立てるのか、誰がリードするのかなど）。完成したコラージュとグループの音を同時に鑑賞できるように、コラージュは１作品

		ずつ提示する。 ⑤活動のクールダウンに向かう。一つの楽器を共有することにより、グループワークで獲得した一体感をより強め、仲間意識を維持する活動。

外部連携 / 教材等

教材：
ワークショップ１回目：「いろのわ」（髙木によるオリジナル教材）、ハサミ、糊、ウェットタオル
ワークショップ２回目：「海の音」打楽器、金属系楽器、小物楽器などを中心とした楽器を使用